



東地中海地域ニュース

トルコ：北イラクへの越境作戦に関する動向

(現地報道取り纏め)

1. PKK による攻撃

- (1) 9月29日、南東部のイラク国境に近いシュルナク県で、PKKが民間人の乗ったミニバスを襲撃し、12人を殺害した。殺害された12人のうち7人は村落警護団員であった。
- (2) 10月7日、シュルナク県でPKKが国軍部隊を襲撃し、兵士13人を殺害した。軍は同地域で航空支援を伴う広範囲なPKK掃討作戦を開始し、PKK要員の逃走を阻止する目的で、シュルナクのカバル山を封鎖すると共に、隣のハッカリ県でイラク国境に向け40分間砲撃を行った。

2. テロ対策を巡る協議

- (1) 10月8日、ギョル大統領、エルドアン首相及びブユックアヌト参謀総長が三者会談を行い、最近のテロ問題について協議した。協議後、「テロとの闘いは国民及び全ての政府・治安機関の協力の下、祖国の治安が確保されるまで継続される」との声明を発表した。
- (2) 10月9日、エルドアン首相の主宰でテロ対策高等評議会会合が開催され、「必要な時に」北イラクへの越境作戦を実行できるよう、各関係機関に必要な命令・通達がなされた。

3. 越境作戦に関する国会決議の要請

- (1) 10月9日、与党公正発展党(AKP)中央運営委員会会合が開催され、テロ対策として北イラクへの越境作戦を行う権限を得るための決議案を国会に提出することを決定した。
- (2) 10月11日、エルドアン首相は、CNN トルコとのインタビューで、同決議案では、越境作戦に関し1年間の有効期限を設ける予定であり、期限内の「必要な時」に作戦を実行するが、決議が採択されたからといって直ちに同作戦を実行するわけではないと述べた。
- (3) AKPは同決議案の国会への提出を10月15日に行うと発表した。

4. 国際社会の反応

- (1) 米国(10日): 米国政府は、トルコ軍による北イラクへの越境作戦はイラク情勢を更に悪化させるものであり、実行するべきでないとの考えを変えていないとの声明を発表した。
- (2) 欧州委員会(10日): PKKによるテロ活動を非難し、トルコのテロとの闘いを支持する意向を表明する一方、問題解決は関係各国間の協力により行うよう求めた。
- (3) NATO(11日): クラドック NATO 最高司令官は、我々の同盟国トルコは南東部国境において問題に直面しており、トルコの越境作戦を阻止するために為すべきことは余り残っていないと述べた。